

蓬萊町だより

第二十一号  
平成元年4月30日  
元者蓬萊町会  
平發行集者編

蓬萊町界限(その十八)

書生の宿・下宿屋(一)

林 順 信

◆地方人吹きだまりの東京

江戸は世界一の人口を有した都市だったことは、昨今の専門家の研究で明らかにになった。江戸の人口は元禄時代(約三百年前)に既に八〇万人、享保時代(約二百八十年前)には百万に及び、幕末は百二十万人いたといわれる。

しかし、明治のご一新で、いわゆる三百諸侯が、屋敷と共に、江戸詰めの侍や使用人が故国へ引き揚げてしまったので、急に六十五万人に減ってしまった。江戸は各地方からの武士と、商人と丁稚小僧たちの寄せ集まりの都市だった。根生いの江戸の人などはほとんど零に近いといっても過言ではない。むしろ、江戸を取り巻く世田ヶ谷や中野や練馬や王子や葛飾辺には、中世の鎌倉時代から続いている名主や農家があって、それ等は徳川様よりも古いと言えることができる。

世田谷の大場氏、王子の醍醐氏、高木氏などはその代表の苗字である。

明治になって激減した東京の人口も、明治政府の下で行われた、行政や教育制度によって再び、都市東京への中央集権が進められ人口の流入を見た。わが蓬萊町は前回に述べた通り、その七、八割が寺社地で占められて居り、残り、は太田備中守の屋敷地であったというほかは、肴町に近い方に町屋がわずかに開けていたという有様だったから、町の人々の人口も微々たるものであった。

明治になっての学校教育は明治五年に学制が敷かれて、小学校と師範学校はいち早くスタートしたが、中学以降に至っては極めて遅れて、各府県で早いところと遅れたところとまちまちであった。東京についても、府立の四中までが、明治年間の創立で、府立五中(現小石川高校)が大正二年の創立というから大変に遅れていた。地方においてもかくの如くであり、交通機関も未発達だったから、各県の中でも、中学校以上の高等教育を受けるには、寮に入るか、知人の家に寄宿するしか方法はなかった。どうせ自宅を離れて宿泊するのならば、東京に出て来てしまった方が便利だという人も多かった。

私の一世代前の人達の中で、地方の恵まれた家に育った人たちは、兄弟姉妹の数が多くて、五、六人から十人などというところもあった。

そういう家では、東京に一戸建ての家を建てたり、または借家を探して、きょうだいが一戸に集まり、女中を置いて学校に通うというところもあった程である。

県によっては、故郷の学生を選んで、東京の宿舍を作っているところもある。現在でも月白台の椿山荘そばの熊本県の和敬塾や、本郷追分の文京学園そばの鹿児島県人学生寮とがある。

明治も三十年代後半、日露戦争以後、わが国の産業革命が行われ、機械化学工業製の普及と共に、東京への学生の集中が始まった頃に、東京帝大及び明治法律専門学校(明治大学)、日本法律専門学校(日本大学)、英吉利法律専門学校(中央大学)、仏蘭西法律専門学校(法政大学)などのある本郷や神田界隈に、学生の寄宿する下宿屋を営む者が次第に増えて来た。

後に世に出て高級官僚や大博士や実業家として、作家として、今日に名を残す高名な諸氏も、その書生時代を本郷や神田の下宿生活を送ったことのある人が多い。

わが蓬萊町にも戦災で燃える前には、実に十軒の下宿屋があった。下宿屋での書生の生活の内容その他の具体的なことは次回に述べるので、今回は、日本郷区における下宿屋の総括的なことのみを紹介する。

◆黒い学生服の町として

昭和七年には、従来の十五区時代から、新た

に周辺の郡部から二十区が新市域に編入されて大東京三十五区の時代が、戦後昭和二十二年に現在の二十三区になるまで続いた。

蓬萊町は、本郷区駒込蓬萊町と呼ばれていた。私の手もとにある『東京下宿旅館組合連合会』の昭和十年の会員名簿によると、小石川区には下宿屋が五六軒あったのに対して、本郷区には二七六軒もの下宿屋があつて、小石川区の五倍に達する。少し細かすぎる嫌いはあるが、場合によっては資料として重さも出るかも知れないから、本郷区の各町内の下宿屋の数を左に列記することとした。

春木町	三三三	金助町	三
新花町	二二二	湯島町	七
東竹町	一一一	天神町(一三丁目)十二	
妻恋町	一一一	三組町	五
切通坂町	六	龍岡町	七
両門町	三	元町	一八
弓町	一一一	真砂町	五
本郷(一六丁目)二六		菊坂町	一三
台町	三三	森川町	二四
追分町	二二三	弥生町	六
東片町	三	西片町	一
丸山福山町	一	西須賀町	三
根津八重垣町	一	根津藍染町	二
根津片町	一	根津宮永町	一
肴町	一一	丸山新町	二

駒込蓬萊町	一四	千駄木町	一四
駒込林町	七	曙町	一
神明町	三	動坂町	一
富士前町	二	上富士前町	一

右のうち、さすが東京帝大のお膝元の本郷と台町と森川町と追分町の四つは最も下宿屋の数が多のであるが、お膝元といっても弥生町や東片町や西片町に下宿屋が少なかったことは、これ等の町々が、いわゆる高級住宅地として分譲が行われていたことを示すもので、福山城主の阿部氏の西片町、広島城主の芸州浅野氏の弥生町などがそれを物語っている。

わが蓬萊町には、次の十四軒の下宿屋があつた。

第三初音館	菊地 蔵吉	蓬萊町六番地
千歳館	土谷 とめ	六番地
第八初音館	平間 とし	六番地
第一東洋館	間中 好三	七番地
第一初音館	広瀬 なか	七番地
東館	堀井 もと	十七番地
清光館	三谷 きよ	一八番地
昇盛館	秀島 元枝	一八番地
第二初音館	大野 貞子	一八番地
有信館	齊藤金太郎	二一番地
敷島館	井田勝五郎	二五番地
岳南館	四谷 亮	二八番地

豊島館	阿部 あい	蓬萊町二八番地
蓬萊館	高橋 ゆき	四五番地

右の十四館であるが、旧六番地七番地は郁文館中学の周辺であり、十八番地は真浄寺西脇の一直線の細い路地に軒を連ねていた。二八番地は、郁文館グラウンドの旧砂場のあつた北隣の地域であつた。

営業主に女性名義が多いのは、当初は岐阜県や茨城県からの先輩の跡を慕って、同郷の人たちが本郷の地に下宿屋を開いたものが多い。その主人は官公吏だったり、勤め人だったりしたので、兼業をはばかって奥さん名義にした場合もかなりのパーセンテージに上つていた。

下宿屋の建物の有様や、部屋、賄い、女中その他の話は次回にゆずるとして、今や明治の木造三階建てとして、森川町に残る本郷館が知られているが、戦災で焼けるまでは、わが蓬萊町の第三初音館、郁文館隣の第五初音館は木造三階建ての家に堂々とした下宿屋であつた。果たして空襲がなかったとしても、現在まで営業をやつていられるかどうかはわからないが、蓬萊町にも木造の大きな建物として十四軒の下宿屋があつたから、黒い学生服を着た下宿屋に寄宿する大学生の数もまた五百人は下らなかつたことを思うと、明治からの百二十年の歩みの半ばは、書生の町としての蓬萊町というもの

が存在していたことだけは明記されてもよいだろうと思う。

### 町会活動の概要

昭和63年12月から平成元年3月まで

#### 総 部 務

12月13日 町会の業務並びに運営について、40年以上の永きにわたり貢献されてこられた左記の方々に感謝の意を表することが役員会の総意により決定し、本日の役員会において感謝状並びに記念品を贈呈いたしました。

#### 記

久貝 貫一様 高島 正義様 青木梅太郎様  
半沢 義吉様 小林 音吉様 川西 正造様  
広沢長次郎様

12月20日 年賀門松（絵ビラ）を全町会員宅に配布いたしました。

1月6日 文京区町会連合会、新年名刺交換会  
1月17日 営団地下鉄工事に伴う説明会が駒本小学校に於いて開催された。「出入り口の設置場所等について」

#### 「お知らせ」

(1) 蓬萊町、町名の由来について述べられた銘板が区役所から37枚配布されたので、設置場所を選び近々のうちに取り付けをいたします。

(2) 町会備品としてこの度、大型灯油式ファンヒーターを購入、町会の行事並びに会員宅の葬儀など冬季の暖房用に使用をいたします。

(3) 中部担当役員 神保三郎様、この度、文京区63年度区政功勞表彰において地域自治振興功勞者に表彰されました。

(4) 南部担当役員 翁松夫様、一身上のご都合で3月31日に退任、代って、里見正一様が担当役員となりました。

### 特 報

先にお願ひ申し上げましたが、本年四月度より町会費を、  
一ヶ月 一口 三百円とさせていただきます。  
また、会の運営上、会費は前納ということをご協力いただきたく存じます。

#### 防 犯 部

3月20日～3月26日 春の防犯運動週間が実施されました。

空き巣、ドロボーの多発する季節です、戸締まりに注意を。

#### 防 火 防 災 部

12月2日 秋の全国防火運動実施

運動期間中の特別指導として、今回は各ご家庭の火元について消防署係官による巡回指導が行われました。

3月10日 この度、当町会の防災備品倉庫の設置及び設置場所について文京区役所防災課に申請を行いました。

#### 文 化 部

1月10日 本年、当町会の会員皆様のご家庭で成人式をお迎えになった方々のお名前を載せさせて戴きました。

成人を迎えられ誠にめでとございます。当町会より心ばかりの記念品をお贈りさせていただきますました。

#### 記

堀江 克美様 桑田 恵子様 三河 要子様  
半沢 義一様 池田 哲哉様 田中 武久様  
赤木 啓悦様 高橋 剛様 名取恵美子様  
小泉 光様 小野 順子様 木部 文嗣様  
清水 浩司様 西村 秀之様 平野 喜照様  
早川 栄一様 加藤 定信様 木内 孝枝様  
宇佐美 学様 石橋 剛様 橋本美弥子様  
奥山 浩代様

1月30日 このたび広報事業として、当町会が昭和57年1月より発行をしております「蓬萊だより」の広報活動一部助成金として文京区役所から金二〇、〇〇〇円が交付されました。

3月31日 本年度、当町会会員のお子様で、小学校へ入学される方のお名前を載せさせていただきますました。

ご入学誠にありがとうございます。当町会より心ばかりのお祝い品をお贈りいたしました。

記

菅谷 純君 小林 貴彦君 今井 達郎君  
戸田 大晴君 島田 絵加君

青年部

12月18日から12月29日まで町内歳末夜警巡回を町会役員と共催によって実施いたしました。

本年もこれという事故も無く新しい平成元年を迎えられましたことを皆様と共にお慶び申し上げます。

2月19日 餅つき大会 午前11時から午後2時まで。

暖かな好天に恵まれた中での「餅つき大会」大勢の会員の皆さんが子供さんをつれて参加され、青年部員が総出でつきあげたお餅はたちまち売り切れ、あとはゲームコーナーで遊んでもらいましたが、いかがでしたか。また、楽しい企画を立てますのでその節には皆さん誘い合わせてご参加下さい。

婦人部

12月5日 「歳末たすけあい募金」に際しまし

ては、いつもながら皆様から多大なご厚志を賜り誠にありがとうございます。

募金で戴いた金額は次の通りです。  
一金、一七七、七二二円

訃報

当町会にお住まいの方で、12月から本年の3月までの間に逝去された方々のお名前は左記のとおりでございます。

謹んでお悔みを申し上げ、ご冥福をお祈り致しております。

小野田千代様 本城 幸様 高木 たま様  
磯貝 きみ様 竹沢 賞様 早川四那治様  
永田 政江様

蓬萊句壇

(四月二十四日)

兼題 入学・ひばり

天 春の雨開きしまゝの時刻表 帰蝶

地 雲雀落つ基地反対の旗旗 連木

人 ゆく春や異国人の瞳のふかみ 小匣

草原に伏す若人にひばり啼く 喜一

待つ母にとびついてゆく入学児 すえ

春ともし茶話埒もなかりけり 向雪

裾野八里そのひろがり夕ひばり 小匣

芽柳の風にもつれて光りあり 千重

路地裏の芽動ぜずとも日脚伸ぶ 千重

酒弱くなりし老翁の風邪薬 喜一

明け暮れに山の噂や二月尺 笑子

春の風邪やうやく癒えて通夜の席 すえ

水仙の荷を解き了へし頃の雨 すえ

密よりも甘く誘なう恋の猫 向雪

金風音止まず作業場二月尽く 帰蝶

木の毎と書き観梅の色紙展 連木

無雑作に割るシエフ若し寒卵 浦雨亭

編集部

本冬は暖冬のため、これという厳しい寒さも感じない内に春を迎えた今日この頃の陽気ですが、会員の皆様方にはいかががお過ごしでしょうか。町会事業も四月から新年度に入ります。平成元年度の町会事業の有意義な活動を図るため、会員皆様方の厚いご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

編集委員

小林 音吉、 竹中 一馬、 高橋 一郎  
猪熊 良晃、 池田 暉